

「継続は力なり」継続的な実施で得られた日本の援助のプレゼンス

(セネガル・地方給水事業)

日本テクノ株式会社

セネガルでは多くの住民が井戸に依存していたが、浅井戸においての水因性疾病の多発や枯渇、さらには深井戸においても排水・給水施設整備が行われておらず、多くの既存井戸が有効に活用されていない状況であった。そこで、既存深井戸を水源として利用する地方給水整備事業である「セネガル共和国地方給水事業」が、1979年から現在まで JICA の無償資金協力事業として実施されている。17 案件が同一国において同一テーマで継続して行われ、これまでポンプ設備、高架水槽、配水管路、公共水栓などを含む給水施設の建設が実施された。

一方、このようなハード整備にともない水管理組合育成など持続的インパクトをはかるべくソフト面での工夫も行ってきた。協力規模は累計で約 115 億円となっている。本プロジェクトにより 109 の村において新規給水施設が建設され、10 の村において施設の拡充、4 カ所で管理施設建設が行われた。増加した給水量は 31,000 立方メートル/日であり、これはセネガル国の地方水道給水率を大きく引き上げた。安全な飲料水が確保されたことによって住民の衛生面は大きく向上し、水汲み労働から解放された女性や子供たちの社会への参加の機会が増加し、ジェンダーや教育問題にも大きなインパクトがあった。地勢上、比較的村落規模は大きく、裨益人口は 32 万人に上り、住民の生活や生産活動に不可欠な家畜 57 万頭も恩恵を受けている。

本プロジェクトは、20 年以上に亘りひとつの国でひとつの事業を行ってきたという、継続が大きなインパクトを生み出した成功例であり、事業評価ミッションを多数受け入れ、評価も確定している。また、フランス語圏アフリカにおける数少ない日本の成功例であり、コンサルタントのカウンターパートとの協調による工夫が成功につながったケースでもある。各村に住民を中心とした維持管理制度や収入向上策導入の発端となった給水施設をつくるというミクロ的な貧困削減案件としても高く評価できる。

